

桜しべ降る呑川の道

ゴールデンウィーク前半の3連休が終わりましたね。

皆さん、いかがお過ごしだったでしょうか・・・

今日は、孫たちにも音楽を聴かせようと「東京交響楽団」の子ども向けプログラムに連れて行きました。

「東京交響楽団」は、かなり古い話になりますが、TBSとの専属契約を打ち切られ、楽団員の自主経営オーケストラとして話題を呼びました。その後いろいろありましたが、彼らに活躍の場を与えるための番組「題名のない音楽会」が東京12チャンネルでスタート、ところが東京12チャンネルも経営破綻に陥り、テレビ朝日に移るなど苦難ばかりが続いているようです。でも今日の演奏会は孫たちにとって、とても楽しい音楽会でした。

ただ、演奏会はどこも高く、家族で聴きに行くのは大きな負担ですから、公共的な援助が無いと、子どもたちは良い音楽を楽しむチャンスを失ってしまいます。

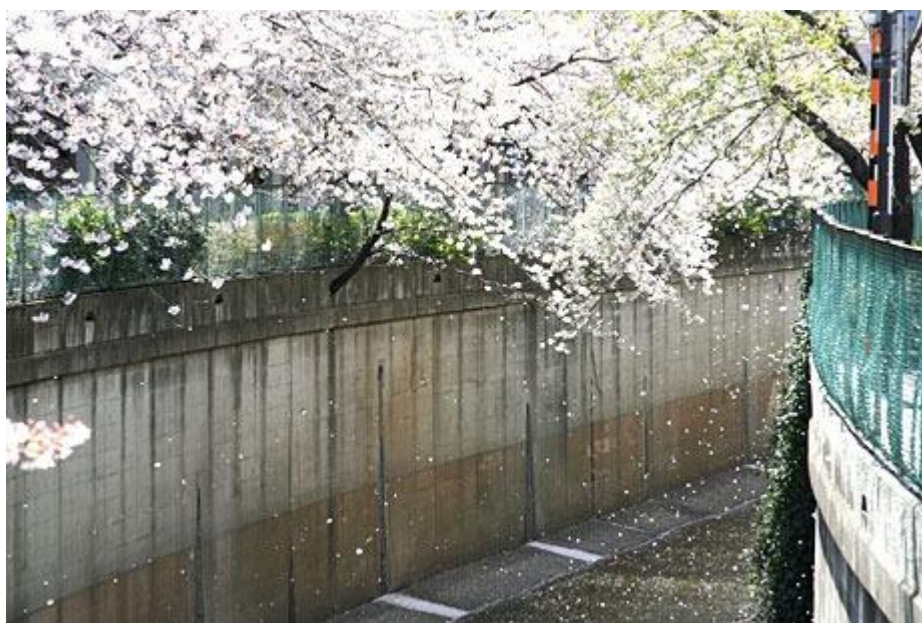
大阪も橋本市長の下、市の吹奏楽団を無くすとか・・・良い音楽を、負担なく、気軽に楽しめる環境を何とか作ってあげたいと切に思います。

さて、4月も今日で終わり、「桜」を楽しむ機会とも別れようとしています。

4月に入って「桜」の話題ばかり続いて恐縮ですが、やはり日本人は「桜」に心を惹かれ、我が「呑川」をも魅力ある場所にしてくれます。

ただ人々は、桜の「満開」を過ぎると見向きもしなくなり、その後もあでやかな魅力を放っているのに、とても残念です。

そこで、もうちょっと「呑川の桜」を見つめてみたいと思います。



「満開」の桜を迎え、春のそよ風が「花吹雪」を生み出しているのを見ると、春をグンと感じ、心が浮き浮きします。



時として、まったく風が無いのに、はらはら・・・と、さらに、はらはら・・・とまるで雪が降るように、花びらが落ち続けるのを見ると、心が惹きこまれて身動きが出来なくなってしまいます。

それは、風がそよいで散る、ななめに流れる「花吹雪」とは違った、感動さえ与えてくれます。



そして出来た香川沿いの「花じゅうたん」・・・とてもあでやかです。



桜の「花じゅうたん」は、ぼっーと遠くから眺めてもステキですが、近くに寄ってみても、その透けるようなピンクはなんとも可愛らしいものです。



呑川沿いの道は人が通るだけでなく、車が往来しますので、

道の中央では、「花じゅうたん」はすぐ吹き飛ばされてしまいます。
でも、呑川の支流「九品仏川緑道」では、こんなにギッシリと
花じゅうたんの「小道」が出来るのです。



こうして「花吹雪」と「花じゅうたん」の時期が過ぎると、人々はもう桜に
興味を失ったかのように、目が行かなくなってしまいます。
時折、4月末までは咲いている八重桜やしだれ桜に目が行き、新緑の
気持ちよさを感じても、その新緑が「桜」であることさえ忘れ去られて
しまいます。

(この写真は、呑川沿いの石川台中学付近です。)

先週の後半、雨が続いた時がありました。
用事があって傘を差して、呑川沿いを歩きました。



とても静かで、美しい光景に出逢いました。

桜の花びらのじゅうたんは、もうとっくに終わっているのに、若葉の美しい桜の木の下に「赤いじゅうたん」が敷かれていたのです。思わず一句・・・（とても、俳句の体をなしていませんが・・・）

「傘うがつ 桜しべ降る 呑川の道」

雨は降っているような、降っていないような春の「こぬか雨」でした。でも、その傘にぼつん、ぼつんと何かが当たります。傘に当たり音が出るような、大粒の雨は降ってはいないのに・・・と、周りを見渡すと、呑川沿いの道には「赤いじゅうたん」・・・そうです、それは「桜しべ」のじゅうたんだったのです。私の傘に当たったのは、「桜しべ」が落ちてぶつかったのです。「こぬか雨」で、音が聞こえるような雨でなかったからこそ、とても静かで、「桜しべ」が傘に当たるポツンという音が聞こえたのですね。



「桜しべ」の「しべ」は「雄しべ」「雌しべ」の「しべ」です。その「桜しべ」が、新緑の葉が出そろった後に、次々に落ちて来て、「赤いじゅうたん」を敷き詰めているのです。



「桜しべ」をよく見ると、その一つ一つはとても濃い赤い色をしています。こんなに赤いのですから、少し遠くで見ると「真っ赤なじゅうたん」となるのです。新緑のきらめくような緑とコントラストをなして、ほんとうにあでやかなのです。この「桜しべ」の降る光景は、昔から人々に愛されてきました。俳句の「季語」にもなっています。ただ、どういうわけか「桜しべ」だけでは「季語」にならず、「桜しべ降る」で「季語」としているようです。花びらのようにひらひらと「散る」のでなく、ストーンストーンと「降る」ように落ちるので「桜しべ散る」でなく、「桜しべ降る」としているのでしょう。でも、多くの人には「満開の桜」が終わってしまえば、「桜しべ」のこういう光景に見向きもしないのです。現代の人々にとっては、「桜」は「宴会」だけの価値になってしまったようです。せっかくですから、この「桜しべ」を見てみましょう。



新緑の葉でいっぱい桜を見上げると、花びらがすっかり散ってしまった「桜しべ」が付いています。

よく見ると、雄しべ・雌しべもはっきり見えていて、今は誰も見てくれませんが、その赤い美しさは、とても可憐できれいです。

花びらとは違っておしゃれな雰囲気があって、私はこの風景が大好きです。

この美しいシーンを見ないなんて、もったいないと思うのです。

そして、この「桜しべ」が落ちて「赤いじゅうたん」を作ってくれるのです。



でも「桜しべ」を一つ一ついねいに見ていくと、「サクランボ」が成っているのに出逢います。でも、どうしてたった一つなのでしょう？残りの「桜しべ」は「サクランボ」にならず、そのまま降ってしまうのでしょうか・・・

道ばたの「桜しべのじゅうたん」のものすごさを見ると、「サクランボ」の実を付けずに、落ちてしまうものがとても多い気がします。でも、それはどうしてなのでしょう・・・？



これは、桜の蜜を吸いに来たヒヨドリですが、花にくちばしを差し入れ、雄しべの黄色い花粉がいっぱい付いているのが判ります。

「サクランボ」が成らなかった「桜しべ」は、野鳥たちが受粉作業をしてくれなかった花なのでしょう・・・

これは「植物学」を学んでいない私の勝手な想像ですが、「ソメイヨシノ」は人間が観賞用に「品種改良」して作り上げた花だから・・・なのではないのでしょうか。

ソメイヨシノの「サクランボ」は、それを蒔いても「発芽」する訳ではありません。

挿し木や接ぎ木によってのみ増えていくそうです。

ですから、結実して「サクランボ」が成っても、特に意味は無いのです。

「ソメイヨシノ」は自分でそれを知っていて、結実しないうちに自分で「桜しべ」を落とすのではないのでしょうか・・・

「発芽」しないのにたくさん「結実」をして、自分の体力を消耗するよりも、その前に「桜しべ」を降らして、赤いじゅうたんを作り、人を喜ばせる・・・なにか、けなげで、自己犠牲的で、哀れさえ感じます。

人間が作り上げた花木のそんな姿を見ると、桜が散った後の「桜しべ」の降る姿も、ちゃんと見てあげなければと思うのです。



「桜しべ」をていねいに掃いて、掃除をしている人がいます。人は桜の花びらが散っている時は、「その清掃は毎日大変だろうなあ」と感じ、掃除をしている人に感謝をします。でも、その後、新緑になってしまえば、掃除が必要だとは思わない人が多いでしょう。赤い「桜しべのじゅうたん」など、思いもよらない、思考の枠外なのです。

しかし、桜は「花吹雪の清掃」「花しべの清掃」だけではありません。新緑が終わり、暖かくなり、夏までは「毛虫（アメリカシロヒトリ）」の駆除が必要になります。そもそも人工的な改変種は、寿命も短く、病害虫に弱いので、毛虫に取り付かれると枯死することもあるそうです。人間を楽しませるために改良されたものの、「ソメイヨシノ」の一生は苦しみに満ちた生涯で、それを和らげるため、日常的な管理や世話が必要なようです。

そして秋は美しい紅葉・・・こんどは「枯れ葉」の清掃に明け暮れます。

私たちは、そういう苦勞に想いをはせないで、「呑川」沿いの桜についてあれやこれやの勝手な言い分をうんぬんしていいのかと考えてしまいます。

新緑が美しい桜を見ていて、気がついたことがありました。



写真では判りにくいかもしれませんが、この「街路灯」の周りの桜の枝が切られています。

気になって、そばで清掃をしていたおじさんに聞いてみました。

「街路灯に照らされて、ほんとうは夜に眠る桜が眠れない。それで街路灯の周りの枝が枯れてしまった。枯れた枝が落ちて怪我をすといけないので、切った」と、言います。

人間はここでも桜を痛めつけ、ここでもそういう管理をしている人がいます。



掃いた「桜しべ」をまとめて置き、あとでリヤカーで拾って捨てるそうです。そんな様子を見ながら、またまた気になって、フェンス沿いのツツジ植栽の

根元に伸びているアイビーについて、前からの疑問をぶつけてみました。

「アイビーのツタは呑川に伸びているけれど、道路側には伸びないのですか？」

「道路側に伸びるものもある。そのツタに足を取られて転んだ人もいますので、気がついたら刈っている」

私たちは呑川に垂れるアイビーのカーテン、緑のカーテンをすがすがしく眺めますが、背景にはそんなご苦労もあるのです。



今日も新緑の桜の下を、人が通り過ぎていきます。

でも「桜しべ」の降る「赤いじゅうたん」を見向いてもくれません。

人は、こういう情景を美しく感じる「感性」を、もう失ってしまったのかもしれない。

ときには、まるで雪が降るような「花吹雪」に、心をときめかしたでしょうか・・・
真っ赤な「桜しべ」のじゅうたんに、はっとした感動を覚えたでしょうか・・・
そのうち「桜しべ降る」などという「季語」も消えて無くなるのかもしれない。

「呑川」を歩く・・・「呑川」の桜を見つめる・・・

それは私たちに、感性をみずみずしく刺激し、多くのことを気がつかせ、
問題点や課題を浮き彫りにしてくれます。

皆さんは、今年、呑川沿いの桜を見て何を感じ、どう楽しまれたでしょう。
どうぞ良いゴールデンウィーク後半をお楽しみください。

(当面の日程) 「金環日食」も近づき、忙しい日が続きますね・・・

- 2012/5/3 (日) おおたく環境探検隊「苗作り(種まき)」
2012/5/8 (火) 呑川ネット・定例会 10時 生活センター 調理室
2012/5/12 (土) NHK 朝ドラ「梅ちゃん先生」の時代を体感するガイドウォーク
「東邦大学・梅屋敷コース」(大田観光協会) ガイドは六郷用水の会
2012/5/19 (土) 大田区・東松島市「絆音楽祭」 日本工学院専門学校 11時
2012/5/19 (土) 呑川の会・世話人会 13:30 「こらぼ大森」予定
2012/5/20 (日) おおたく環境探検隊「代掻きと苗の健康診断)」
2012/5/21 (月) 金環日食 6:19 - 9:02
部分食から金環状態になるのは7:35分を中心に約5分間
2012/5/27 (日) おおたく環境探検隊「田植え」
2012/6/9 (土) NHK 朝ドラ「梅ちゃん先生」の時代を体感するガイドウォーク
「昭和のくらし博物館コース」(大田観光協会) ガイドは六郷用水の会
2012/6/16 (土) NHK 朝ドラ「梅ちゃん先生」の時代を体感するガイドウォーク
「東邦大学・梅屋敷コース」(大田観光協会) ガイドは六郷用水の会
2012/6/16 (土) 呑川の会・総会 15時 場所未定

このほかに「高濃度酸素処理水」実験結果報告会、「大田区との意見交換会」
「呑川生きもの調査」などが準備されています。

*「梅ちゃん先生」ガイドウォークは、大田観光協会(03-3734-0202)へ
おたずねください。

——photo essay by——

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
